

# 月刊しばうら

2026年6月号

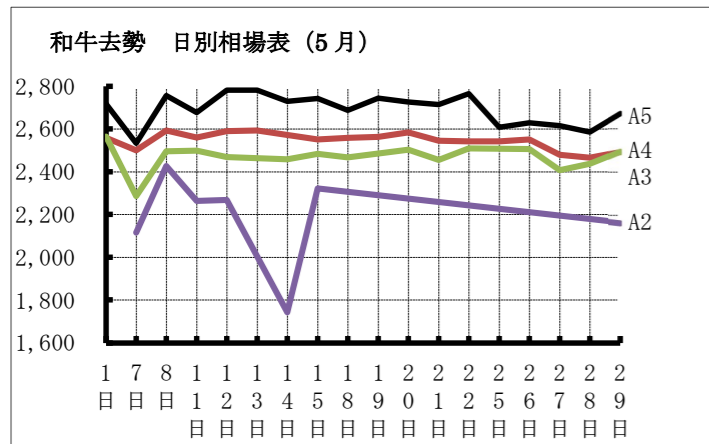
## 牛肉営業部

### <5月の相場動向>

ゴールデンウィーク期間中の市中売れ行きは前年並みを維持または上回ったが、連休後は消費者の節約志向から低迷した。

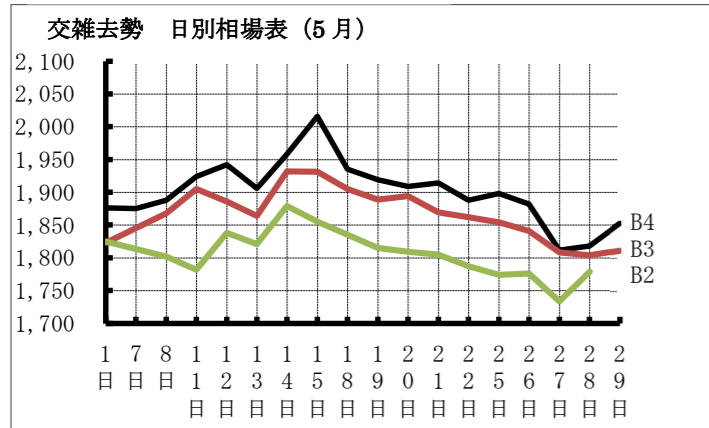
5月の月間相場は前月比で和牛はA5等級を除き若干上昇、交雑牛は全等級で4月を上回る展開となった。要因としては、連休明けの在庫補充や、全国と畜頭数が80,550頭(前年比95.16%)と想定以上に減少したことで輸入牛肉の高値が継続したため国産牛、特に交雑・和牛経産牛の需要が高まったことが挙げられる。

一方、月後半には枝肉相場高騰による卸売価格の値上げに末端がついていけない状況も見られた。



### 和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,710円	+208円	108.3%	-26円	99.0%
A4	2,547円	+263円	111.5%	-21円	99.5%
A3	2,470円	+285円	113.0%	+1円	100.0%
A2	2,154円	+410円	123.5%	+18円	100.8%



### 交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,905円	+199円	111.7%	+48円	102.6%
B3	1,872円	+235円	114.4%	+64円	103.5%
B2	1,803円	+265円	117.2%	+74円	104.3%

### 乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	1,296円	-	-	-	-
B2	1,353円	+156円	113.0%	-9円	99.3%

### <6月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、4月の輸入量は前年同月比4.2%増の5万5,347tで、うちチルドは7.7%増の1万6,003t、フローズンも2.8%増の3万9,354tとなり、ともに前年同月比・前月実績を上回った。

農畜産業振興機構によると5月の牛肉輸入数量は、前年同月比10.5%減の4万3,300t(チルド18.0%減・冷凍6.7%減)、6月は2.3%減の4万1,200t(チルド9.2%減・冷凍1.0%増)で予測している。

輸入牛肉については、チルドは現地価格の高止まりや連休後の不需要期であることから大幅な減少が見込まれ、フローズンは国内の輸入品在庫量が比較的高水準であることから、米国を除く主要輸入先からの輸入量が減少し前年同期を下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		4月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	8,647	6,992	123.7%
	米国	5,794	6,411	90.4%
	その他	1,562	1,457	107.2%
	合計	16,003	14,860	107.7%
フローズン	豪州	20,694	17,158	120.6%
	米国	14,188	13,941	101.8%
	その他	4,472	7,166	62.4%
	合計	39,354	38,265	102.8%

出典：食肉速報 単位：t

### <6月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による6月の出荷予測頭数は、全体で前年比100.2%の8万5,300頭で品種別にみると和牛は0.8%増の4万2,000頭、交雑種は2.9%増の2万300頭、乳用種は0.6%減の2万2,500頭と予測している。

また、東京食肉市場の6月と畜頭数は7,800頭(前年比4%増)を予定している。

### <6月の牛枝肉相場見通し>

6月も物価高騰に対する節約志向は継続するとみられ、牛肉需要の大きな回復は見込めない。父の日に向けた高級部位の発注増を期待したいが、ロースなどの荷動きは鈍く見通しは不透明である。中元商戦への手当も見込まれるが、近年の贈答品減少傾向から相場への影響は限定的だ。

またサッカーワールドカップ期間中(6月12日~7月20日)は消費者の早帰り傾向により、外食業界の来客数減少が予測される。上昇要因が少ないことから、6月は前月を若干下回る相場展開が予想される。

交雑牛は量販店・外食チェーンでは低価格商材の需要が中心となるなか、アメリカ産輸入牛肉の価格高止まりや不安定な入荷を背景に、代替品としての引き合いは堅調を維持している。ただし本格的な上昇は7月からと予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,550~2,750	B4	1,800~1,900
A4	2,400~2,550	B3	1,700~1,800
A3	2,300~2,400	B2	1,600~1,700
A2	2,000~2,200		
乳牛去勢			
B3	1,400~1,500		
B2	1,300~1,400		

## 豚肉営業部

2026年4月の全国と畜頭数は138万7,000頭(前年同月比0.9%増)と前年を上回った。また、4月の豚肉通関数量は10万3,369t(前年同月比10.0%増)と前年同月から1割増加し10万tを超えた。内訳はチルドが3万6,456t(同1.6%増)と増加し、フローズンも6万6,913t(同15.1%増)と前年同月を大幅に上回った。

2025-2026年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
4	77,457	93,904	24,518	197,256	77,266	88,763
5	73,100	90,460	24,091	214,149	73,406	73,567
6	68,598	83,731	24,109	222,274	68,453	75,606
7	69,871	82,687	22,399	219,105	71,374	84,255
8	63,753	74,022	21,855	216,178	64,151	76,949
9	70,991	76,220	21,545	213,175	71,134	79,223
10	81,313	84,875	21,943	209,457	80,789	88,593
11	76,416	65,268	22,199	196,931	75,962	77,794
12	82,651	68,313	22,928	182,068	81,767	83,176
1	80,664	83,073	22,910	190,177	80,567	74,964
2	73,952	65,442	23,465	186,194	73,310	69,425
3	78,207	76,792	24,895	186,013	76,584	76,973
4	77,021	103,288	23,825	193,172	77,942	96,129
比	99%	110%	97%	98%	101%	108%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

4月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	11,746	103.2%	デンマーク	5,396	138.3%
カナダ	20,197	98.5%	スペイン	9,111	54.5%
メキシコ	4,511	113.5%	メキシコ	5,104	83.5%
			アメリカ	11,861	180.7%
			カナダ	6,015	112.1%
合計	36,456	101.65		66,913	115.1%

単位：t

### <5月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	64,900	796	762	1,095
2日	—	754	735	968
8日	67,700	867	850	1,074
11日	66,300	794	758	971
12日	66,900	757	725	1,093
13日	66,200	706	676	950
平均	66,400/日			1,025/日

ゴールデンウィークによる稼働日減少から、1日当たりの出荷頭数は6万頭台後半となった。牛肉・鶏肉が高値で推移するなか、割安感から豚肉需要は底堅く推移した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
14日	67,600	679	662	942
15日	64,700	653	622	1,085
18日	63,800	602	571	1,035
19日	64,200	617	601	979
20日	60,400	634	585	832
21日	64,500	671	650	817
平均	64,200/日			948/日

全国と畜頭数は6万頭台で比較的安定している一方、連休明けで行楽需要に一服感がみられた。中東情勢によるナフサ製品の品薄などが影響し消費者の節約志向がより一層高まり、豚肉需要が低迷。相場の下落傾向に歯止めがかからず、600円台まで落ち込んだ。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	62,100	671	644	1,029
25日	61,700	648	622	852
26日	63,500	689	657	962
27日	58,200	670	630	730
28日	64,700	652	631	911
29日	61,200	667	643	937
平均	61,900/日			904/日

相場は下落傾向で推移していたが下旬に入りやや反発し600円台後半となった。末端消費が冷え込むこの時期としては底堅い相場展開となった。

### <6月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和8年6月の肉豚出荷予測では131万2,000頭(前年同月比106.6%)と予測している。当市場の6月集荷予定せり頭数は1万8,000頭、1日あたりでは約818頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると6月分の豚肉輸入見込数量は、総量で9万1,200t(同108.9%)、内訳は冷蔵輸入量が3万6,300t(同113.4%)、冷凍輸入量は5万4,900t(同106.2%)と予測。

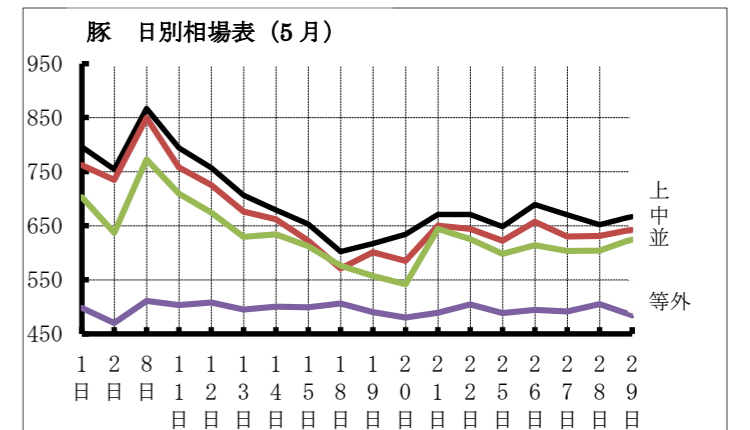
冷蔵品輸入量は、相場上昇による牛肉・鶏肉からの需要シフトを背景に前年同月および3カ月平均で共にかんりの程度上回ると予測される。

冷凍品輸入量は、アフリカ豚熱発生による輸入一時停止措置の影響によりスペイン産の減少が見込まれるものの、ブラジル・米国・欧州各国等からの代替輸入が増加すると見込まれることから、前年同月をかんりの程度上回ると予測される。また3カ月平均では前年同期をやや上回ると予想される。

例年6月は梅雨入りによって消費が落ち込む時期となる。さらに今年はゴールデンウィーク明け以降、末端需要の低下が続いており、部位ごとの目立った動きも見られないことから、相場は落ち着いた展開が予想される。

供給面では、6月の出荷頭数が3年ぶりに130万頭を超える見込みとなっている。一方、梅雨明け後は気温が平年より高いとの予報から、暑さによる増体不良で出荷の遅れや上物率の低下が懸念される。

以上のことから当市場の上物平均価格は650円前後、中物平均価格630円前後の展開と予測する。



**東京都港区港南2-7-19**  
**東京食肉市場株式会社**  
**TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127**  
**URL <http://www.tmmc.co.jp/>**